

令和6年度 羽咋市立羽咋中学校 学校研究

1 研究主題 「主体的・協働的に学び、高め合う生徒の育成」 ～学習者主体となる授業づくりを通して～

<主題設定理由>

昨年度、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて、単元デザインの中に生徒自身が学び方や学ぶ内容を選択できる授業を位置付け実践してきた。その結果、生徒が主体的に学習に取り組む姿が見られたり、教科の特性に応じた効果的な複線型授業のスタイルが見えてきたりするなど、一定の成果が見られた。一方、複線型授業が本当に生徒の学力の定着につながっているのか、また、生徒が本当に学習内容を理解しているのか、見取りが難しいといった課題も見えてきた。そこで今年度は、教科の特性に応じた効果的な複線型授業の在り方についての研究を進めつつ、各教科において複線型授業の有効性について、振り返りの方法を模索しながら学校研究に取り組むこととした。

2 育成を目指す資質・能力

他者と協働しながら主体的に学ぶ力（人間関係形成・自己調整能力）

3 目指す生徒の学びの姿

- ・他者の考えや意見を聞き、自ら考え判断し、自分の考えを適切に表現する
- ・自分自身の学びを振り返り、自分にとってのよりよい学び方を主体的に模索する

4 研究仮説

- (1) 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に授業に取り入れ、ICTをより効果的に活用することによって、学習者主体の授業づくりにつなげることができるであろう。
- (2) 生徒の活動や振り返りからの教師の見取りを的確に行い、生徒の学びの変容を捉えて授業改善を進めることにより、学習者主体の授業づくりにつなげることができるであろう。
- (3) 質の高い生徒の活動（思考・対話）が授業の6割以上となることを目指し、教師の効果的な働きかけを充実させることによって、学習者主体の授業づくりにつなげることができるであろう。

5 研究の内容と手立て

(1) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けての取組

- ①単元デザインの中に、生徒自身が学び方や学ぶ内容を選択できる授業と、重点的に振り返りを実施する時間を位置付ける。職員会議後の「ミニ交流会」で、良かった点や改善点について職員間で共有する。
- ②単元の初めに教師と生徒がゴールイメージを共有し、ゴールに向かってより意欲的に取り組めるような導入や課題設定の工夫をする。
- ③生徒自身が学びの足跡を実感できるように、単元の中で意図的に振り返りの時間を設け、学びを蓄積し、次の学びへの見通しをもてるようにする。
※振り返りの視点…単元ゴールに向けて、できたこと・足りないこと・やるべきこと

(2) 生徒の活動の質、教師の働きかけの質を高める工夫

- ①研究授業等で抽出生徒の授業記録（TC記録）をとる中で、生徒の変容のきっかけとなる教師の働きかけについても記録し、適切に生徒を見取る力を付け、生徒の活動と教師の働きかけの質の充実につなげる。
- ②研究授業等において、これまでの定点撮影に加えて、ペアやグループ活動の様子を近くで撮影することにより見取りをしやすくし、指導改善につなげる。
- ③発話量分析シートを活用し、生徒の活動量の割合のほか、ポイントとなる教師や生徒の発言、行動などの様子も記録していく。

(3) 対話力の向上を目指す取組～対話の充実～

- ① コミュニケーションスキルを向上させるために、月2回の対話タイム「羽トークタイム」を継続して行う。異学年グループ交流も取り入れながら、どの学年でも1分間トークができることを目指す。
- ② 「羽トーク」の話合いの型やルールを授業中の対話に生かす。
- ③ 講演会や集会等の際に、質問した生徒が答えてくれた人に対して更に一言意見や感想を付け足す「1.5往復」のやり取りができるよう、日頃から指導する。
- ④ 全学年、終学活の際にデジタル新聞等を活用した「ニュースの紹介」を取り入れる。

(4) 生徒会活動と連携した取組

「新・学習ルール5か条」や「パソコンルール3か条」の定着を図る。また、「学習オリエンテーション」や「学習ルール強化週間」、「学習環境チェック」などの取組を生徒会活動と連携して行うことで、生徒の声を生かし、学習規律に対する生徒の意識を高める。

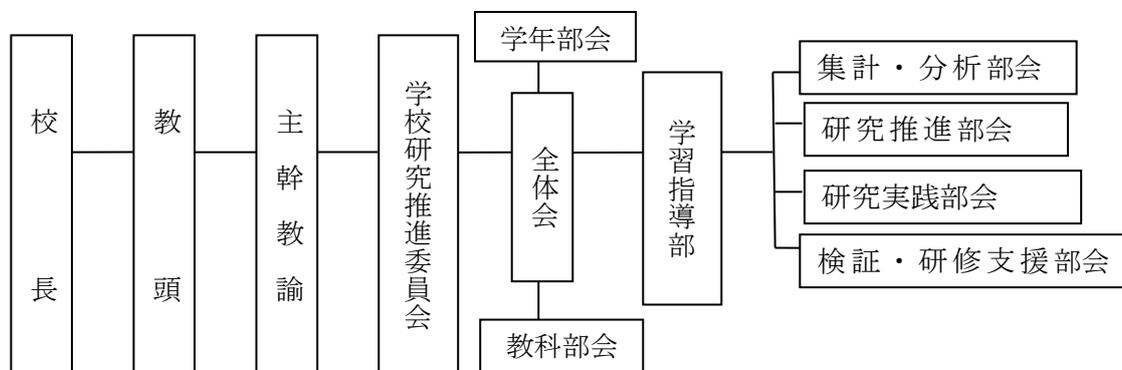
(5) 基礎・基本の定着

- ① 「基本タイム」を活用して基礎・基本の定着を図る。結果の掲示や成績優秀者表彰により、合格への意欲を高める。
- ② 毎日の5教科の課題で家庭学習の習慣化を図る。AIドリルやウェブプリントも用いて生徒それぞれに応じた個別最適な自主学習が継続できるようにする。

6 検証方法

- (1) 研究授業の際に授業記録（TC記録、発話チェック）をとり、生徒の様子を見取る。
- (2) 動画撮影した自分の授業における生徒の姿を基に授業分析を行う。
- (3) 学校研究についてのアンケートをとり、定期的な検証や取組全体の検証を行う。

7 研究組織

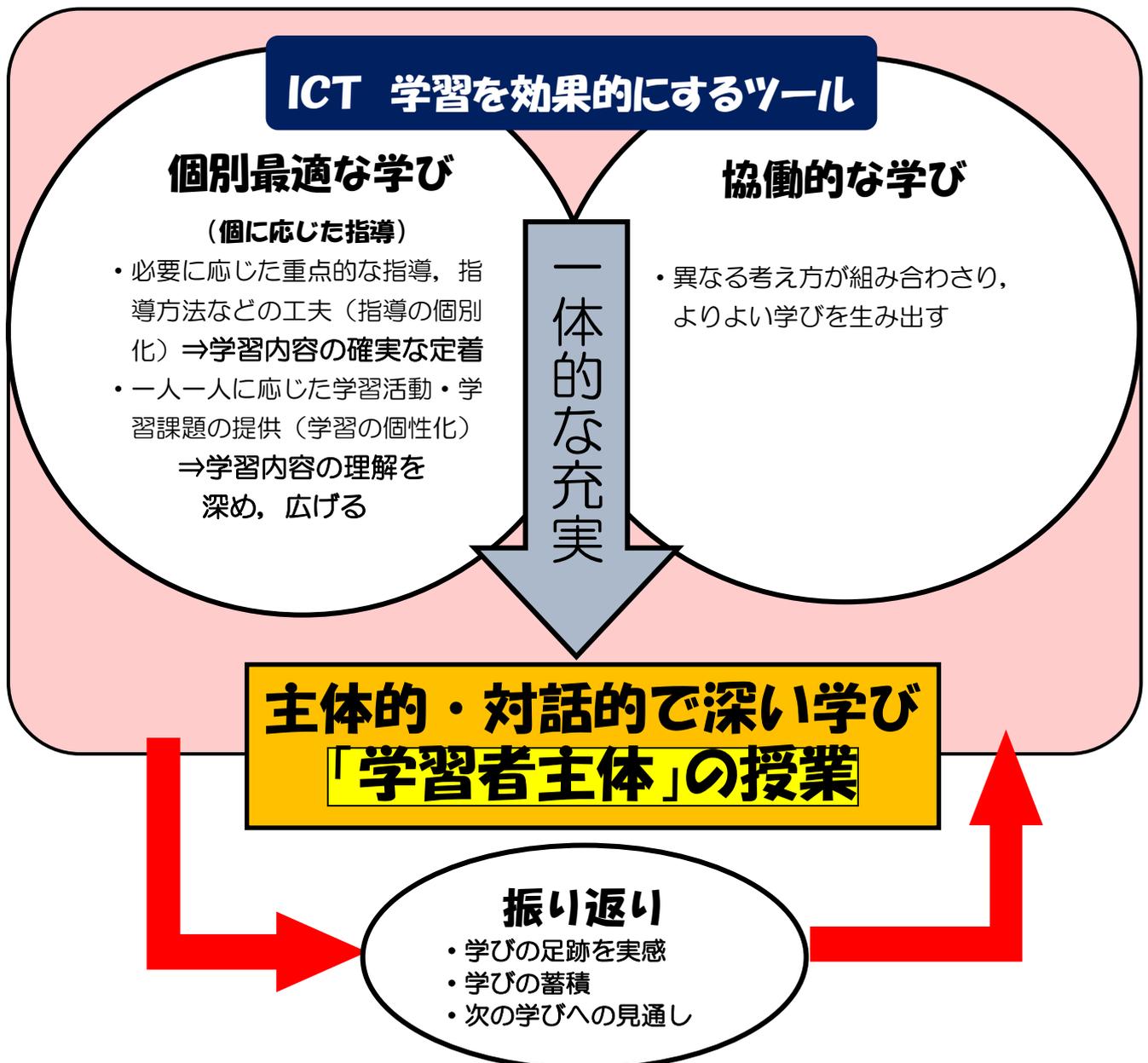


- (1) 学校研究推進委員会
 - ・ 学校研究の基本方針の企画を行う。
 - ・ 校内研修計画の立案，情報収集，理論の作成を行う。
- (2) 学習指導部
 - ・ 研究推進委員会の案について検討し，研修計画を練り上げる。
- (3) 全体会
 - ・ 研修計画に基づき，実践活動の推進のために全職員の共通理解を図る。
- (4) 研究4部会
 - ① 集計・分析部会
 - ・ 学校の目標を踏まえ，学力調査結果の集計・分析を行い，目標と現状との差から課題を明確にする。
 - ・ 課題の原因を究明し，指導改善の方向性を示す。
 - ② 研究推進部会
 - ・ 課題の克服や解決に向けて，実効性のある学力向上プランを作成する。

- ③研究実践部会
 - ・学力向上プランを具体的・計画的に実行し、学校全体の指導力向上を図る。
- ④検証・研修支援部会
 - ・学力向上プランの実施状況について、定期的な検証や取組全体の検証を行う。
 - ・計画的なOJTや検証結果を踏まえ、必要となる校内研修を適宜行う。
- (5) 学年部会・教科部会
 - ・研究主題に迫る指導方法や学習形態の工夫等の手立て及び重点を検討し、授業実践を通じて検証する。

R 6 学校研究

「個別最適な学び」と「協働的な学び」が一体的に充実した
「学習者主体」の授業づくりに向けて



<学習者主体の授業イメージ（羽咋中授業スタイル）>

| | | |
|-----------------------------|--|---|
| <p>① つかむ</p> | <p>○学習の見通しの共有（単元の導入で） 学習計画（何時間扱いか、どういう内容があるかなど）と単元のゴールを共有する</p> <p>○解決したい課題を明確にする</p> <p>○その時間の主な内容や概念的なことを全体の場で確認する</p> | <p>学びに意味を見いだす</p> <p>学びの動機付け</p> |
| <p>② 考える・広げる・深める</p> | <p>○個別最適な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた課題（発展・習熟・補充など）を選択して行う ・個々のペースで課題に取り組む ・学習内容を選択する ・調べる方法を選択する <p>個人で考える，ペアやグループで考える，PCで考える など</p> <p>○協働的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働のタイミングや相手を自分で決める ・班内で協働学習しながら，それぞれの班が自分たちの計画で，自分たちのペースで進めていく など <p>○個に返り，みんなで考えたことや共有したことを自分で再構築する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめ方を自分で選択する（ノート，スライドなど） など | <p>「どのように学ぶのか」を生徒自身が考えることで</p> <p>学び方を身に付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間関係形成 ・社会形成能力 ・課題対応能力 |
| <p>③ まとめる・振り返る</p> | <p>○学びを実感できる振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の言葉で本時の学習のまとめや，本時の学習の振り返りを行う ・次につながる振り返りを求める（単元ゴールに向けて） <p>できたこと・足りないこと・やるべきこと</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・単元のゴールに向かってどの位置にいるのか客観的に捉える ・自分を見つめ，自己認識・自己発見する ・自己調整能力を付ける <ul style="list-style-type: none"> ・メタ認知力 ・自己モニタリング力 |

